



みんなの健康



令和3年2月1日
うさぎ山こども園
養護教諭 高橋

2月3日は立春、もうすぐ春を迎える季節ですが、寒い日が続いています。しかし、この寒さの中でも子どもたちは元気いっぱい、園庭を走り回って遊んでいます。冬の感染症といえばインフルエンザが代表格ですが、今年はコロナ感染への対策もあり流行が抑えられています。しかし油断は出来ません。園でも、コロナウイルスはもちろん感染症予防対策には万全を期していますが、ご家庭でもこの危機を乗り越えられるよう対策をよろしくをお願いします。



冬に多い感染症予防

感染症予防対策

手洗い、マスクの着用などはもちろん、3密を避けるなど、しっかり予防していきましょう



せきエチケットを守ろう



油断できないかぜ

かぜは年齢が低いほど、中耳炎や気管支炎、肺炎などを起こしやすくなります。気管の弱いお子さんの場合は、のどがゼーゼーしたり、長引いたりする傾向があります。早めに診察を受けましょう。

冬のかぜによくある特徴



高熱に注意! 溶連菌感染症

突然高熱の出る、非常に感染力の強い病気です。下記の症状が見られたら、早めに受診しましょう。

- 突然高熱が出て、のどがはれて痛みが出る
- 全身に発しんが出る
- 舌にイチゴ状の赤いぶつぶつが出る
- おう吐、頭痛が起こる



溶連菌感染症は 治った後も検査を受けて

溶連菌感染症は、突然の高熱、のどの真っ赤なはれ、かゆみのある発しんが全身に広がるなどの症状が出ます。抗菌薬を飲めば治りますが、大切なのは、症状が治まった10日～2週間後に1回、さらに1か月後に1回、尿検査を受けること。「急性糸球体腎炎」などの合併症を起こしていないか確認するためです。忘れずに受診しましょう。

